

# 写真の撮影方法

## 光のコントロール

### 屋内で撮る場合

屋内で撮影する際には電灯の位置に注意してください。電灯の真下で撮影をすると影が濃く出てしまいます。

#### カメラと同じ側に光源（順光）



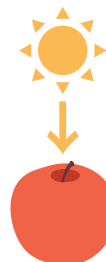
明暗がつきにくく色合いがハッキリするので、人物紹介などに最適です。

#### サイドからの光源（半逆光）



片側に影が出来るので、立体感のある写真が撮れます。

#### カメラと反対側に光源（逆光）



順光、半逆光に比べて光を透過しやすいので、食品撮影などに最適です。

### 野外で撮る場合

11～13時は太陽が真上であり、頬や鼻の影が顔にクッキリと出てしまうので避けてください。さらには午前中の撮影が望ましく、晴天より曇りが理想的です。

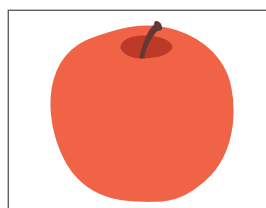
### 背景や床の色の選び方

背景はフラットな単一色（モノトーン）が基本です。撮影では床の照り返しを考慮してください。鮮やかな赤や緑など色味が強い床の場合、色が被写体に映り込みます。

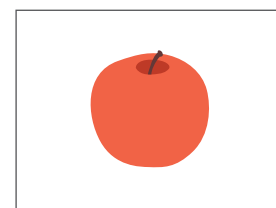
## 撮影のポイント

### 「ここだ！」という画角から、少し余白を

撮影した写真を加工する際に、一番魅力的に見える画角で調整をします。どの画角でトリミングをしても対応ができるよう、やや余白を空けて撮るようにしてください。



画角いっぱい NG

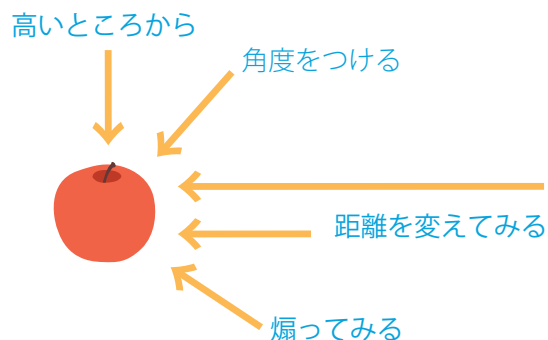


やや余白をとる

### いろいろな視点から狙う

シャッターは、条件を変えて何度も押します。近づいたり離れたりを、いろいろな視点から撮影することで、被写体はさまざまな表情を見せます。

撮る場所を変えれば光の当たり方も変わるので、予想していなかった被写体の姿に出会うこともできます。



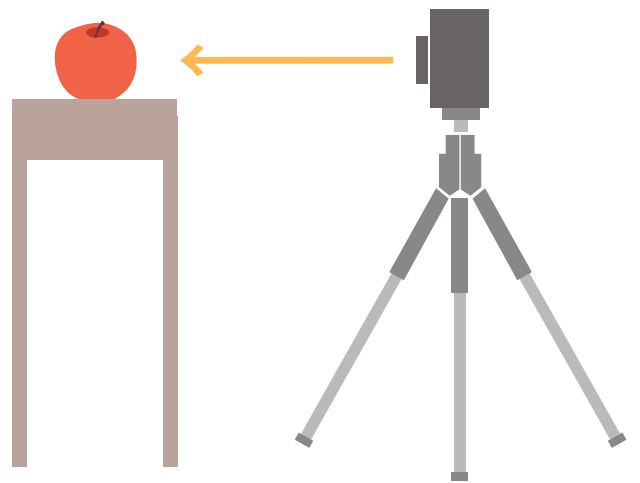
# 手ブレを防ぐ

## カメラをしっかり固定する

三脚があればなるべく使うようにしましょう。ない場合には以下のワザを試してみてください。

- 壁や扉に背中をもたれかけさせる。
- 机などにカメラを構えた肘を付く。
- ゆっくり息を吐きながら、吐く速度に合わせてシャッターを切る。切った後も吐き続ける。
- 連写モードで10～20枚ほど撮る。
- 扉の上などにカメラを置いて三脚代わりにして撮る。

カメラを扉の上などに置いての撮影は、シャッターモードを「2秒タイマー」にすると押した瞬間もブレずに済みます。



## 人物撮影

### リラックスして映ってもらおう

ほとんどの人は慣れない状況に、最初は緊張します。緊張をほぐすためにも、いろいろと話しかけながら撮影をするとリラックスしてもらえます。

### キメポーズのときは

レンズの向こう側にの人に語りかけるつもりで視線をもらいます。後半になると堅さがとれてくるので「最初のポーズ、もう1回やってみましょうか!」と声をかけると効果的です。

### 撮影環境のチェック

撮影の前にもう一度まわりを見渡してみましょう。余分な物は映ってきませんか? ネクタイは曲がっていませんか? また良い表情が台無しにならないよう、ファンデーションやあぶらとり紙などで鼻やおでこのテカリを抑えてください。クシがあると髪も直せます。



## 注意点

### カメラの解像度は高め

なるべく高い解像度で撮るようにしてください。せっかく素敵な写真が映せても、解像度が低いと大きく引き伸ばして使用できません。

### シャッター前に、水平を確認

広角レンズなどで周りをたくさん入れた写真を撮ると、「ゆがみ」が生じます。建物の壁や机などを基準の目安にすると、水平のとれた写真が映せます。

### 「失敗した!」と思っても削除はしない

メモリーカードが足りないとき以外は、失敗写真でも必ずそのままに。小さい液晶モニターで見て失敗と感じても、大きなモニターで見てみたら迫力があるように感じられるかもしれません。時間を空けて改めて確認したときに、その場では気がつかなかった良さに気がつくこともあります。

